

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あしたば )

事業所番号	0671200301		
法人名	有限会社ウェルネスさがえ		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	寒河江市大字西根字石川西294-3		
自己評価作成日	平成21年 9月 18日	開設年月日	平成18年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出の支援</li> <li>・文化祭・イベント等地域活動への参加</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do">http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 10月 16日	評価結果決定日	平成 21年 11月 11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1ユニット9名で小じんまりとしたアットホームな雰囲気、あえて派手な事はしないという考えですが、市開催の「認知症サポーター養成講座」の講師依頼や山形短期大学生の実習受入等、指導者としての信頼も厚く、又、ボランティアの来訪も多く、ホームとしての特長が地域に浸透しつつあり、何よりも利用者との関わりの時間を大切にしている信念を持って、日々努力を惜しまない事業所です。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共有できるように、職員全員で理念をつくりあげてホール内に掲げている。また、定期の会議時等、意見交換・討議をはかりながら理念の実践に向けて取り組んでいる。	「住み慣れた地域で安心できる、ゆったり、穏やかな暮らし」という事業所理念をもとに、より具体化した介護目標を職員全員で新たに作り、ホール内に掲示し、日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りへの参加、花咲かフェアへの参加、文化祭での作品展示などの参加で、地域の一員として交流を図っている。	ボランティアの来訪も多く、今年は地区祭りの子供みこしがわざわざ寄ってくれたり、又、地域行事の参加、市民講座の講師派遣等を通して交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師の依頼を受けたり、市民講座の講師を受けたりし、地域の人々に向けて活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で得た意見をサービス向上に活かすとともに、より地域社会へ参加できるよう取り組んでいる。また、会議は、双方向的な会議となるよう配慮している。	外部からの参加メンバーは町内会長、市の担当者、利用者代表、家族代表となっており、2ヶ月に一度開催され、事業所からの報告や意見交換がされ、サービスの質の向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出物等ある場合は、郵送ではなく、足を運ぶように心がけ市担当者と連絡を密にとっている。	市民講座の講師依頼や、相談、情報交換等、市との関係作りに取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	運営方針に身体拘束についての方針を掲げ、身体拘束をしないケアをしている。また、玄関のドアに鈴をつけるなどの創意と工夫により取り組んでいる。	日中は玄関を開放し、ドアには鈴をつけ開閉が分かるようにしており、職員は利用者一人ひとりの行動パターンの把握に努め、外出しようとしたら、見守りながらさりげなくついて行く等、地域の協力も得ながら安全面に配慮した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、その伝達研修を実施し、学ぶ機会を得ている。また、常に虐待がないように注意喚起を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加したりし、学ぶ機会を持つよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとり説明するよう実践している。また、質問等を受けながら理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに心がけている。また、ホール内に意見箱を設け、意見等を表せるよう心がけている。	ホールには、意見箱を設置しており、家族等の面会も多く、会話を大切に心がけ、得た情報をサービスに反映させている。家族を招待したいも煮会を毎年開催している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的実施する常会や、日々の申し送り等で現場の意見や提案を聞き、討議し運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら現場で共に勤務し、職員個々の努力や実績を把握して職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加への希望を聞きながら研修を受ける機会の確保を図り、また、伝達研修等を実施しレベルの向上を図っている。また、経験の浅い職員には、マンツーマンにて働きながらのトレーニングを実践している。	職員は外部研修に交替で参加しており、記録した報告書をもとに伝達研修を行い、職員の共有が図られている。又、新人研修にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換実習への参加、他施設のイベントへの参加、利用者を連れて訪問などにより、同業者との交流を通じて質の向上に取り組んでいる。	同業者との訪問交流、交換実習等を通して情報交換し、サービスの質の向上を目指している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人から直接話を聴く機会を設け、信頼関係を築くよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時より、時間を取り話しを聴き、信頼関係を築くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や状況等を確認しながら、できるだけ柔軟な対応を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極め、役割を持ってもらいながら共に過ごし支えあう関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族との面会時の中で、情報の共有に努め、喜怒哀楽を共にし、家族・ホーム一体となって本人を支えていく関係を築くよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人の訪問を受けたり、昔から利用している床屋・美容院・食料品店を利用し、本人の希望を取り入れながら支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	台所仕事・洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除等など、利用者同士が支えあいながら一緒に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った場合には、関係者に本人の状況やケアについて情報を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より本人及び家族の希望を聞き、入居者の意向の把握に努めている。また、その人にあった役割りや好きなことをしてもらいながら、希望に添えるよう支援している。	職員は日々の関わりの中で、利用者本人の思いや意向を把握するように心がけ、家族からの情報を共有し、一緒に支えていく関係作りに努め、充実した生活を送れるようにサポートする立場で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり生活歴や、どのような暮らしをしてきたのかを、本人や家族等からの聞き取りにより把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態に合わせ、残存機能を助長しながら、現状の総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の要望を聞き、カンファレンスにて意見・アイデアを出し合い、職員全員で情報を共有しながら介護計画の作成に努め、同意も得ている。	利用者本人の希望を第一に考え、家族と職員全員で情報を共有し、それらを反映させた介護計画を作成している。定期的には毎月、変化があった場合はその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎の介護記録ノートを使用して職員全員で情報の共有に努めている。また、定例のカンファレンスにて、全員の意見を聞きながら介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの馴染みの店を利用したり、図書館・文化センターなどの活用により豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医での受診になっている。また、ホームでの状況について情報提供しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医に家族が付き添い、情報提供しながら受診している。受診結果は共有されており、適切な受診支援が見られる。		
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日常的な健康管理や医療活用の支援を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の介護サマリー等で情報を提供し、入院先への面会により回復状況の把握や早期退院にむけての相談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態が変化した時、家族等の意向を聞きながら、事業所として出来る事などを話し合い対応している。	看取りは行われていないが、状況変化に応じ、段階ごとに家族と話し合いを繰り返し、かかりつけ医、ケア関係者と意向を確認し、対応方針の共有を図りながらチームで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急蘇生訓練を実施したり、応急手当や初期対応のマニュアルを作成し学習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。また、利用者と一緒に避難訓練も実施している。また、近隣の人にも協力を得られるような声かけをしている。	日中を想定した避難訓練や職員の通報訓練を実施している。		昨年の課題でもあったが、災害時の具体的な避難策を昼夜通して検討し、地域等の協力を得ながら、職員と利用者が一緒に年間を通じた訓練の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守るため、職員全員が、言葉の内容や声の大きさに注意を図りながら対応している。	利用者同士が、お互い相手の気になるようなやりとりの時等、職員が中に入り配慮したり、日々の声かけにも心がけ対応している。記録簿は事務所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	常に一人一人に働きかけながら、本人の思いや希望を表せるように説明し、自己決定に結び付けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の心身状況に合わせ、それぞれのペースを大切に、本人の希望を優先に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの生活習慣に合わせ、希望の理美容院に行ったり、本人も同行して洋服を購入したりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れている。また、準備・片付けを一緒にするとともに、同じテーブルで食事をし、楽しく食事できるようにしている。	利用者の希望を聞き、毎日献立を立て、一連の作業はできる方と一緒に、外食、出前等も取り入れながら、同じ食卓を囲み、食事を楽しみなものにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合わせてきざみ食にしたり軟食にしたりしている。また、毎食時の摂取量を記録して摂取量を把握している。また、毎月体重測定を実施しコントロールしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・義歯の洗浄を実践している。また、一人一人に合わせ、マウスウォッシュ等も使用している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄の習慣やパターンを記録・把握しながら、それぞれに合わせた声かけやトイレ誘導により、失敗を減らすような介助を実践している。	排泄チェック表で確認し、習慣やパターンに応じて一人ひとりに合わせた、誘導、声かけ等もさりげなくという事に心がけ支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便となるよう心がけ、毎日運動を実施したり、野菜を多く取り入れたり、乳製品の摂取等により工夫している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は決めてあるが、それぞれの体調に合わせて入浴したり、本人に聞きながら、入浴したい日・希望する時間の入浴に配慮している。	一番風呂に入りたい方等、希望に合わせた柔軟な支援を行っており、拒む人にはタイミングを見て声かけをし、他の話題に気を向け、工夫しながら楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や心身状況に合わせて運動・散歩・足浴等を実施し、安眠できるようしている。また、自室で休息する人もいれば、居間で休息する人もあり、その人に合わせた対応をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのカルテと薬保管場所に薬の処方箋を保管し、常時確認できるようにしている。また、薬の変更時は、連絡帳や申し送り等で連携を図りながら症状の変化の確認に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や状態に合わせ、生け花・貼り絵・計算・台所仕事などを実施している。また、散歩やドライブなどにより気分転換の支援等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と利用者が一緒に買い物に行ったり、希望を聞きながら、散歩に行ったり、観光地に行ったり、外食に行ったりしている。また、家族の協力を得ながら、外出・外泊する機会を応援している。	近くの散歩道のある小川まで出かけ、商店に買い物、家族の協力を得て外泊する等、希望に沿った外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかいを所持して使っている利用者もおり、利用者の希望を取り入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、いつでも電話できるように支援している。また、手紙を出せるような方は、手紙を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に観葉植物を置いたり、利用者に季節の花を生けてもらったり、よしずを下げたりして、季節に合わせて居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用ホールは採光も優しく、広々としており、ソファー、畳敷きには堀ごたつがあり、思い思いに過ごしている。利用者の日課の掃除もあり、汚れ、点検にも配慮しながら、居心地良く過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は、ソファーや掘りごたつや食堂など、それぞれ気の合った仲間と好きな場所で過ごせるような居場所づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスや椅子を持ち込んだり、位牌を置いている人もあり、本人が居心地良く暮らせるよう支援している。	居室には、使い慣れた鏡台、衣装箱、ラジオ等を持ち込み、本人の意向に合わせて、居心地の良い居室作りへの取り組みが見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状態に合わせたベッド周辺の環境づくりをし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、安全のために手摺りを設置したり、トイレ・風呂場に場所を表示し、自立して暮らせるよう工夫している。		